

発行：港区議会議員 阿部 浩子
住所：港区麻布十番 2-4-1-201

TEL/FAX：070-9103-6477 E-mail：abehiroko7@gmail.com
URL：http://www.hiroko-abe.com

港区議会議員(立憲民主党) ひまわり通信

あ ベ ひろ こ

阿部浩子



命と暮らしを最優先!!

円安や電気代高騰等による生活必需品の物価高が続いており、生活が益々厳しくなっています。NPO法人みなと子ども食堂の8月の生活調査では、冷房を我慢している声が多数寄せられました。命の危険にかかわる状況に国の抜本的な支援が必要だと実感しております。

ロシア・ウクライナ戦争はまだまだ終結しておりません。そして、イスラエルではパレスチナへの攻撃で多くの市民が犠牲になっています。ロシア、イスラエルは核の保有国であり、今、まさに被爆国としての日本の平和的役割が問われているのではないのでしょうか。

一方、国では、昨年度の税収上振れ分を国民に還元するとしていますが、国の借金は膨れ上がる一方で子どもたちにつけをまわしているだけです。

防衛費は5年間43兆円の財源を増税で確保し、一方、少子化対策への予算は年間3.5兆円です。この財源は医療保険等国民負担の引き上げで確保するとされています。防衛費と日本の将来を担う子どもたちのどちらが大切なのか、まったく理解できないのが今の国の状況です。

阿部浩子は『港区から命と暮らしを最優先』する政治をすすめていきます。

2023年12月 阿部 浩子



みなと政策会議の仲間



阿部浩子プロフィール



- 1968年2月生まれ、秋田県秋田市出身。麻布十番在住(立憲民主党)
- 2003年港区議会議員に初当選、現在6期21年 元港区議会副議長
- 総務常任委員会副委員長、DX推進・行財政等対策特別委員会、海外修学旅行調査特別委員会所属
- NPO法人みなと子ども食堂副理事長
- 栄養士、東京都動物愛護推進員、麻布消防団員、防災士、温泉ソムリエ
- 家族：夫、娘(高校生)
- 趣味：琴、ジョギング

ホームページ

阿部浩子

検索



第2回定例会

本会議で区長・教育長に質問しました



■学校給食に有機食材の拡大を

質問：選挙公約が実現し、港区は9月から学校給食や保育園給食が無償化になる。そこで、毎年、区が負担している有機栽培米や野菜・果物を拡大し、安全安心な学校給食を。また、アレルギー対応もできる米粉パンの提供を。

答弁：引き続き有機栽培農産物の提供をし、米粉パンはアレルギー対応できるか検討していく。

■麻布地区にドッグランの拡大を

質問：港区に2か所あるドッグランは芝浦と港南に設置されている。麻布地区にドッグランの設置を求める請願が採択されて8年、未だに設置されていない。区民からのニーズが高いこの麻布地区に小型犬・中型犬に限定したドッグランの設置を。

答弁：規模を縮小したドッグランについて、他の自治体の設置事例や運用状況を調査している。ドッグラン設置に向けて情報収集に努めていく。

阿部浩子の考え
麻布十番の新広尾公園にドッグランを試行的に設置するため奮闘中。



■公園トイレを子どもたちが利用しやすいトイレに改修を

質問：選挙中にも公園トイレを「暗い、臭い、汚い」

から子どもたちが安心して利用できるように変えてほしいとの声が多く寄せられた。30億円ある子育て王国基金を今こそ取り崩し一斉改修を。

答弁：子どもたちが安心して利用できるトイレの整備に努める。

阿部浩子の考え
港区は今年4月に「進めよう！おもてなし公衆トイレ」の整備方針をまとめた。しかし急ぐべきは、保育園の園庭の代替施設にもなっている公園トイレ。誰もが利用したいと思うトイレを一斉に整備すべきです。網代公園は今年、地域の方の声からトイレの改修工事を行いました。



■港区への寄贈品の有効活用について

質問：区には様々な物品が寄贈されている。ヒューマンふらざには、竹芝小学校時代に寄贈されたスタインウェイ&サンズのピアノが資料室にそのまま置かれている。価値のあるものをそのまま放置するのではなく、修理をして活用すべき。

答弁：故障しているピアノの修理や調律の方法と費用を確認した上で可能な限り、寄贈者の意向に沿った寄贈品の有効活用を努めていく。



■事実婚への支援について

質問：みなとマリージュ制度を利用した同性婚の区民は33組。一方では、選択的夫婦別姓が制度化されていない。自治体から支援し制度を変えていく必要がある。事実婚で困っている方々にも

港区男女平等参画条例を改正し、区として事実婚の支援をしていくべき。

答弁：事実婚の根拠となる法令との整合性を踏まえ慎重に判断すべきと考えている。国の動向を注視していく。

阿部浩子の考え
マリージュ制度は同性婚だけではなく、事実婚も制度に含むことで、ひとり一人が幸せを実感できる港区に。

■高齢者の方々が元気で長生きできる施策の充実について

質問：厚労省が発表した2020年市区町村別生命表概況調査では、男女ともに平均寿命が一番長い

のは川崎市麻生区で男性が84.0歳女性が89.2歳。港区では男性が82.8歳、女性は88.1歳。23区の中では、男性が6位、女性が8位。

コロナの影響で高齢者会食サービスも中止している。特にひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の方々が充実し、安心して暮らしていける日常を取り戻す必要がある。高齢者の方々が長生きできる環境づくりを区が支援していくべき。

答弁：食を通じた世代間交流の取組については、いきいきプラザ利用者の意見を参考にし検討していく。区独自の健康長寿のアプリ開発をするなど、高齢者の誰もが気軽に楽しみながら介護予防に取り組む環境を整備する。

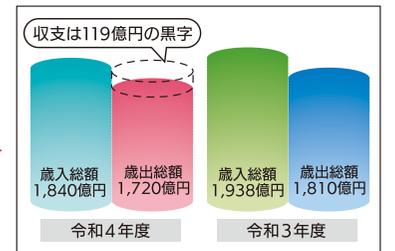


令和4年度決算特別委員会

決算全体額は2,184億円のうち、一般会計が1,721億円、国民健康保険会計が233億円、後期高齢者医療会計61億円、介護保険会計167億円。

予算額と決算額からの差引額が約132億円でした。また港区の基金残高は2,017億円、区債残高は5,699万円。昨年度決算額からみると、特別区民税の収入済額が969.6億円で昨年度より103.0億円の増。増収の要因は、株式等に係る譲渡所得等が突出して高いことが特徴。

ふるさと納税を他の自治体に寄付することで港区が受ける影響額は、69.9億円で令和3年度63.6億円より増加しています。他自治体へのふるさと納税は港区の財政を大きく圧迫しています。



阿部浩子の質問

■ふるさと納税制度について

質問：ふるさと納税で自治体に寄付した港区民は51,859人で昨年度より1.10倍の増、寄付額は190.8億円、それに伴う港区の影響額は69.9億円。一方、港区版ふるさと納税制度への寄付は139件で8,556.5万円。しかし団体応援寄付金であるため、区の収入は3割で2,500万円。70億円近い金額がそのまま区の流出となり、ふるさと納税



制度は区財政に与える影響が大きい。そこで、港区も返礼品を設けて、港区版ふるさと納税の充実を。

答弁：返礼品を設けることは考えていない。引き続き国に抜本的な改善を求める。

阿部浩子の考え
70億円近い税金が他自治体に流出している。返礼品制度を検討していかないとするなら、「港区奨学基金」を始めとする港区版ふるさと納税制度をもっと区民に周知していくべきです。給付型奨学金で区民が区民を応援する制度を広く広報すべきです。

講演会のお知らせ

主催：港区議会議員 阿部浩子／松尾あきひろ前衆議院議員（立憲民主党 東京7区総支部長）

「世界の紛争と国連の現実、そして日本の役割」

講師 明石康氏
(元国連事務次長)



日時 12月23日(土)
14時30分～16時30分

場所 麻布十番会館2階

申込  070-9103-6477 まで
もしくは

定員 80名

ロシア・ウクライナ戦争が始まって約2年。イスラエル・パレスチナ紛争が再発して約1か月。唯一の被爆国日本はG7議長国としての役目を果たしてきただろうか。

非核日本の夢があっても、「核の傘」に守られないのだろうか。国連の安保理事会は国際平和の維持ができるだろうか。世界の現実と日本の可能性に基づいて、私たちの未来をみんなで一緒に考えてみましょう。

 明石康さんは秋田県出身で阿部浩子の同郷の先輩です。今、一番お話を聞きたい方です。



港区立中学校 海外修学旅行について

「港区立中学校の修学旅行を来年度はシンガポールに!」と9月1日区長が突然プレス発表。予算額は5億1千万円
1人当たり約60万円
生徒数：760人(港区立中学校現2年生)

問題点

- ・港区基本計画にも計上されていない
- ・保護者には議会の賛成もなく通知済
- ・当初予算ではなく、補正予算で債務行為の設定
- ・1人当たり60万円近くの税金を使ってする事業なのか全く議論されていない
- ・修学旅行が何故海外なのか

私の考え

「今後も審議を継続するために、会議体の設置を求め」附帯意見をつけて、補正予算案は賛成としました。

理由：①この修学旅行を、今期継続審査にすると、緊急性の高い事業が主である補正予算で可決すべき24事業が継続審査になってしまうこと。
②現在の中学2年生の生徒と保護者に港区は早々にシンガポールへの修学旅行を通知済で修学旅行をすでに楽しみにしている子どもたちがいること。



改善すべき点

① 就学援助世帯への修学旅行費の立替払いを中止すること

就学援助の生徒の修学旅行代は立替払いで、修学旅行参加後に保護者の口座に代金を入金。自己負担を支払うことができない家庭は修学旅行を欠席するケースもある。今後、修学旅行代は立替払をしなくてもいいようにすること。

区答弁：来年度から立替払いの中止

② 特別支援学級の生徒についても、飛行機内や、海外に行くことに保護者の心配がある。丁寧に説明し、また、介助員をつけることで、誰も取り残さないようにしてほしい。

区答弁：不登校や特別支援学級の生徒もあきらめることなく連れていく。

③ 飛行機への不安が特に多い。教育委員会として生徒保護者に説明する場所が必要だと考えるがいかがか。

区答弁：区の来年1月頃に説明会を実施する。

④ 私立学校等へ行っている生徒へも支援の拡大を

区答弁：今後検討していく。

区民の暮らしが厳しい中で海外修学旅行はもっと議論が必要。従来の京都・奈良や広島、長崎、沖縄でも十分に修学旅行の意味がある。